

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置されました。当寄附講座のこれまでの実績と本県における医師の地域偏在の解消、さらなる地域医療の充実のために、地域医療を担う総合診療医等を養成する当寄附講座は、その後平成31年4月から3年間の延長、さらに令和4年度から3年間さらに延長されました。なお、さらに3年間延長することとされました。

同講座は、超高齢社会における様々な医療ニーズに応えられるよう、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めています。

具体的には、熊本大学医学部医学科学生(熊本県医師修学資金貸与学生を含む。)や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通じた地域医療マインドの涵養に取り組んでいます。また、今後、地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、熊本県内の公的病院等が連携するに当たり、同講座が中心的な役割を果たすとともに、教育拠点運営支援や地域医療機関における診療支援を促進することとしています。

【主な内容】

- I. 地域医療支援(診療支援)
- II. 調査・研究
- III. 教育活動
 - ・ 卒前教育(カリキュラム外教育)
 - ・ 卒前教育(カリキュラム内教育)
 - ・ 卒後教育
 - ↳ 初期臨床研修
 - ↳ 専門研修
- IV. 専門医資格修得後のキャリア支援
- V. 講演会

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	27	レジデントデイ
5	11	令和4年度合同Webカンファレンス①
	12	TMEC
	13	クリクラ第11ターム 振り返り会
6	2	TMEC
	3	クリクラ第12ターム 振り返り会
	8	令和4年度合同Webカンファレンス②
	22	第9回 熊本大学総合診療セミナー
	23	TMEC
7	24	クリクラ第13ターム 振り返り会
	6	レジデントデイ
	13	令和4年度合同Webカンファレンス③
9	14	TMEC
	15	クリクラ第1ターム 振り返り会
	8	TMEC
	9	クリクラ第2ターム 振り返り会
	13	第10回 熊本大学総合診療セミナー
	14	令和4年度合同Webカンファレンス④
10	29	TMEC
	30	クリクラ第3ターム 振り返り会
	20	TMEC
11	21	クリクラ第4ターム 振り返り会
	9	令和4年度合同Webカンファレンス⑤
	10	TMEC
	11	クリクラ第5ターム 振り返り会
	16	レジデントデイ
12	22	第11回 熊本大学総合診療セミナー
	1	TMEC
	2	クリクラ第6ターム 振り返り会
	22	TMEC
1	23	クリクラ第7ターム 振り返り会
	11	令和4年度合同Webカンファレンス⑥
	18	レジデントデイ
2	26	TMEC
	27	クリクラ第8ターム 振り返り会
3	8	令和4年度合同Webカンファレンス⑦
	16	TMEC
3	17	クリクラ第9ターム 振り返り会
	9	TMEC
	10	クリクラ第10ターム 振り返り会
	29	第12回 熊本大学総合診療セミナー

3. 活動報告

I 地域医療支援(診療支援)

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点においては、「総合診療科」の外来及び病棟診療を行いました。また、同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

◆ 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
松田	松井	高柳	佐土原	北村

◆ 学外診療支援

医師	支援内容及び支援先医療機関
松井	2022. 4～2023. 3 くまもと県北病院（週1回）
荒木	2022. 10～2023. 3 荒尾市民病院（週1回）
	2022. 10～2023. 3 上天草総合病院（週1回）
佐土原	2022. 4～2023. 3 小国公立病院（週1回）
	2022. 4～2023. 3 阿蘇医療センター（週1回）
北村	2022. 4～2023. 3 山都町包括医療センターそよう病院（週1回）
	2022. 4～2023. 3 くまもと県北病院（週1回）
松田	2022. 4～2023. 3 上天草総合病院（週1回）
	2022. 4～2023. 3 小国公立病院（週1回 月2回当直）

II 調査・研究

◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

修学資金貸与による義務年限を有する学生を対象に、将来のキャリア支援と定着の要因の解析と、例年行ってきた地域医療特別実習の効果を見るために実習の前後で量的・質的なアンケートを実施しており、新型コロナウイルス感染症パンデミック前の令和元年(2019年)データ解析を行い、国内学会での発表を終えました。なお、令和5年(2023年)10月には、世界家庭医療機構(WONCA)での発表を予定しています。

また、その後はポストコロナ時代の地域医療特別実習のあり方についても実施の目処が立ち次第、調査に移る予定にしております。

◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

当講座では、日本専門医機構の基本領域専門医である総合診療専門医の育成を担っています。医師の働き方改革の解決策の一つのモデルを米国のホスピタリスト(病院総合医)に求め、日米の医療制度の違いや労働の実態を比較しました。平成30年(2018年)から継続した課題で、米国のホスピタリスト(病院総合医)にインタビューしたデータを質的に解析したものを国内学会発表し、令和5年(2023年)5月に米国総合診療医学会発表予定であり、現在、論文化の準備作業を進めています。

総合診療専門医のアカデミックな活動の支援として、令和元年(2019年)に兵庫医科大学臨床疫学共催でワークショップを行いました。その活動の一環で、令和3年(2021年)には、研究倫理ワークショップを開催しました。いずれも、AMED(日本医療研究開発機構)の臨床研究トレーニングに組み入れられた能動的な研究倫理学習プログラムに準拠しており、令和4年度(2022年度)も同研究班での開発事業の協力者として活動しており、5年度も引き続き活動する予定です。

◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

研修医が地域医療研修において困難を克己して安全な研修生活を送るためのキャリア支援につなげるために、研修医のレジリエンスと地域医療研修との関係について2019年から2021年までアンケート調査による縦断研究を行いました。会及び科学研究費助成事業の報告書として報告済みで、現在論文文化を進めています。

◆ 教育拠点に関する調査研究

教育拠点に関する調査については、総合診療科、地域医療支援機構、各教育拠点と連携して、次のような取り組みを行っています。

くまもと県北教育拠点については、総合診療科専攻医の教育、初期臨床研修、地域医療・総合診療に係る学生実習の拠点として活動。現在1人の総合診療科の専攻医が勤務しており、くまもと県北病院との連携により本人のキャリア形成に向けた取り組みについて課題等の把握を行いました。

また、令和3年(2020年)4月から天草市立河浦病院に教育拠点を設置し、へき地の中心的な医療機関における地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図る観点から調査を行っています。令和3年(2020年)10月から総合診療科の専攻医が配属になっており、今年度も引き続き当講座の教員の指導の下、診療を行い、課題等についての検証が進められました。

III 教育活動

◆ 卒前教育(カリキュラム外教育)

① 修学資金貸与学生の面談実施

熊本県修学資金貸与学生の今後の円滑なキャリア形成を図ることを目的に、地域医療支援機構と連携して熊本県医師修学資金貸与学生32名の面談を実施しました。今年度も新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、対面及びリモートによる実施となりました。

将来の希望の聞き取りや学生生活の状況等を聞き取り、生活面、学習面等個人ごとに必要な助言をしました。また、6年生に対しては、将来のキャリアプラン等を聞き取り、進路について義務の履行とキャリア形成の両立に関して個別具体的なアドバイスを行いました。そのほか、熊本県医師修学資金貸与制度の周知、キャリア形成プログラムの内容の周知等を図り、将来地域医療に携わることに対する意識が深まるよう努めました。

② 地域医療ゼミ

地域枠学生等(熊本県医師修学資金貸与学生)を主な対象に実施している地域医療ゼミは、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモートでの開催としました。「シネメディケーション」をはじめとする学生企画のゼミ、講演等、合計11回の活動を行いました。

この中で、地域医療支援センター企画の「制度とキャリア」においては、新専門医制度にかかる最近の動きについて当センター教員からの説明を受けるとともに、特に出産・子育てにかかる世代の医師の増加、女性医師・学生の増加等により近年関心が高まっている「出産・育児にかかる休暇・休業と義務の履行」等について県医療政策課からの説明を受けました。

また、今年度新たな企画として、9月、10月のゼミにおいて、修学資金貸与医師・学生、自治医科大学生・卒業医師が義務履行期間中必ず勤務する必要がある第2グループの知事指定病院及び第3グループの病院

等のうち勤務期間の換算が第2グループ扱いとなる診療所の概要について、リモートでの説明会を実施しました。各病院に勤務する若手の医師から普段の医療活動の様子や専門医資格の取得等キャリア形成の実情等についての説明を受け、聴講した医師や学生にとって将来の勤務のイメージづくりに一定の役割を果たしました。説明会の様子は地域医療支援機構のホームページ上に動画を掲載しており、修学資金貸与学生、自治医科大生を中心に視聴されています。

なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎会を兼ねて対面で実施し、自治医大生、県外卒の修学資金貸与学生が参加できるようリモートでも対応できるハイブリット方式で行いました。また、第11回ゼミでは、6年生の卒業を祝って、追出しゼミとして対面で実施しました。

③ 夏季地域医療特別実習

夏季地域医療特別実習は、熊本県医師修学資金を貸与されている学生及び熊本県出身自治医科大生を対象として毎年県内各地で開催しているところです。当実習は、将来地域医療に従事することが予定されている学生が地域の行政関係者及び医療・福祉関係者等に対する聞き取りを通して地域の問題点を探り出すとともに、自ら「見て」「聞いて」「体験」することで、地域を知り、地域との関係性を構築するとともに、地域医療に取り組む意欲を醸成することを目的としています。

今年度は、令和元年8月以来3年ぶりに実施することを目指し、天草上島地域(上天草市、天草市御所浦地域)を対象地域に8月上旬に実施することとして準備を進めてきました。特に新型コロナ感染対策については、①参加者全員にPCR検査を実施し、陰性者のみに参加を認める。②令和4年7月4日付け病院長発出の行動自粛通知を踏まえて、ア)実習中は食事等の場合を除きマスク着用を義務付け、イ)手洗い・手指の消毒こまめに行うこと、建物に入る際は必ず備え付けのアルコール消毒で手指を丁寧に消毒する、ウ)密閉、密集、近距離会話(「3密環境」)を避け、参加者同士つねに一定程度の距離を設けること、特に、i:移動中のバスの車内では、一人分の椅子を必ず開けて座る、ii:食事は黙食、iii:実習期間中大声を出さない、を徹底することとして、参加者にも周知してきました。しかしながら、必要な準備もほぼ整いつつある中、新型コロナ第7波の感染拡大の影響により中止の判断となりました。

◆ 卒前教育(カリキュラム内教育)

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、今年度も、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、医学科長からの依頼に基づき、以下の実習及び講義を行いました。なお、地域医療支援センターへ依頼があった講義(※)も一緒に記載しています。

- ・1年生：医学概論※
- ・4年生：公衆衛生学、行動科学Ⅱ、総合診療学
- ・5年生：特別臨床実習
- ・6年生：特別臨床実習

【1年生】

医学概論	
2022/6/6	後藤 医師のキャリア形成、多様性推進

【4年生】

総合診療学		
2022/4/5	松井	「総合診療学概論 1 (総論)」
2022/4/12	高柳	「総合診療学概論 5 (家庭医療、BPS モデル、患者中心、継続性)」
2022/4/19	佐土原	「総合診療学概論 3 (臨床推論)」
2022/4/26	松井	「総合診療学概論 2 (EBM・診療ガイドライン)」
2022/5/10	佐土原	「総合診療学概論 4 (身体診察)」
2022/4/5	松井	「総合診療学概論 1 (総論)」
2022/4/12	高柳	「総合診療学概論 5 (家庭医療、BPS モデル、患者中心、継続性)」
2022/5/17	高柳	「総合診療学概論 6 (家庭医療・統合ケア・包括性)」
2022/5/24	小山	「総合診療学概論 7 (病院総合診療等)」
2022/5/31	鶴田	「総合診療学概論 8 (高齢者ケア・地域包括ケア)」
2022/6/7	北村	「臨床推論演習 1 (体重減少)」
2022/6/14	中村	「臨床推論演習 2 (倦怠感)」
2022/5/17	高柳	「総合診療学概論 6 (家庭医療・統合ケア・包括性)」
2022/5/24	小山	「総合診療学概論 7 (病院総合診療等)」
2022/5/31	鶴田	「総合診療学概論 8 (高齢者ケア・地域包括ケア)」

公衆衛生学		
2022/6/21	佐土原	「地域保健、地域医療②」

行動科学Ⅱ (医療と社会)		
2022/5/23	後藤	「ストレス対策、リラクゼーション、マインドフルネス」
2022/5/30	後藤	「男女共同参画」

【5年生－6年生】

特別臨床実習 (クリクラ：クリニカルクラークシップ)	
<p><授業の目的></p> <p>診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標としています。</p> <p><授業の概要></p> <p>現在、5 学年の 7 月から 6 学年の 9 月までの全 14 ターム(1 タームは 3 週間) で実施されている特別臨床実習において、当講座は、平成 26 年度から地域医療を提供しています。</p>	

▼各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療*」における学生受入人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	7	10	10	41
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	9	3	5	52
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	11	7	9	51
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	7	7	12	60
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	8	11	8	65
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	1	--	--	16
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	2	3	1	22
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	4	4	4	43
9	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	7	10	3	45
10	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	12	18	20	120
11	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	9	15	12	66
12	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	9	7	9	49
13	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	11	11	13	55
14	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	10	13	15	59
15	公立玉名中央病院(クリクラ総診のみ)	--	--	5	17	16	4	15	8	--	--	65
16	河浦病院									1	2	3
17	栖本病院											0
18	新和病院											0
	合計	12	30	59	59	58	106	138	115	120	123	812

R2年度の地域医療はインタビュー実習等を含む
クリクラ総合診療科実習も含む

◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年6月から6学年の9月までの全15ターム(1タームは3週間)で実施(第1～13ターム必須、第14、15タームは選択)されている特別臨床実習において、地域医療・総合診療実践学寄附講座は、平成26年度から地域医療を提供しています。今年度は、県内の16医療機関の協力を得て、5・6年生 延べ123に対し、地域医療実習を提供しました。

▼2021-2022年度 特別臨床実習「地域医療」の受け入れ人数

No.	実習受入先	ターム 年度 期間	今期															合計		
			11 2021 4/18- 5/13	12 2021 5/16- 6/3	13 2021 6/6- 6/24	14 2021 8/22- 9/9	15 2021 9/12- 9/30	1 2022 6/27- 7/15	2 2022 8/22- 9/9	3 2022 9/12- 9/30	4 2022 10/3- 10/21	5 2022 10/24- 11/11	6 2022 11/14- 12/2	7 2022 12/5- 12/23	8 2022 1/10- 1/27	9 2022 1/30- 2/17	10 2022 2/20- 3/10			
1	阿蘇医療センター		1	1	1															10
2	天草地域医療センター					1	1													5
3	荒尾市民病院		1		1			1	1	1			1	1	1					9
4	小国公立病院		1		1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
5	上天草総合病院		1	1				1	1	1				1		1			1	8
6	御所浦診療所			1																1
7	そよう病院					1	1				1									4
8	公立多良木病院							1	1	1										3
9	人吉医療センター		2		2			1	2	2	2	2	1	1	2	1	2			20
10	水俣市立総合医療センター			2	1			1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
11	山鹿市民医療センター		1	1				1				1	1	1	1	1	1	1	1	9
12	熊本総合病院		1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
13	熊本労災病院		1	1	1	1		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
14	河浦病院			1		1														2
15	栖本病院																			0
16	新和病院																			0
	合計		9	9	8	4	3	9	10	9	8	9	9	9	9	9	9	9	9	123

▼ 診療所・病院のスケジュール例

人吉医療センター					
	月	火	水	木	金
1 週目	オリエンテーション 総合診療・救急センター 総合診療	キヤンサーボード 小児科	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 訪問看護 訪問診療	五木村診療所	外科合同カンファレンス 総合診療 救急センター 訪問診療 訪問看護
2 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 総合診療 救急センター	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 選択診療科での実習	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習	外科合同カンファレンス 訪問診療
3 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 選択診療科での実習	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 総合診療・科学療法外来 訪問看護またはリンパ 浮腫外来	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習 総合診療・救急センター	外科合同カンファレンス 総合診療・救急センター まとめ

選択診療科：小児科、産婦人科、代謝内分泌内科(外来)、外科、整形外科、その他希望診療科

御所浦診療所					
	月	火	水	木	金
1 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
2 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
3 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り（個人で）そ の後、総括

◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、1ターム3週間の選択実習を行っています。

今年度、総合診療科としての実習は、大学病院、くまもと県北教育拠点及び河浦教育拠点の3か所で延べ44人の実習を提供しました。

くまもと県北病院					
	月	火	水	木	金
1 週目	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 多職種（リエゾン）カンファ チーム回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 週間振り返り 自己研修
2 週目	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 多職種（リエゾン）カンファ チーム回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 訪問看護 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 週間振り返り 自己研修
3 週目	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 多職種（リエゾン）カンファ チーム回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 緩和ケア回診 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 ジャーナルクラブ 実習総括	

◆ 卒後教育

① 地域医療に従事する修学資金貸与医師への支援

地域医療支援機構と連携して、地域医療に従事する修学資金貸与医師全員の面談を実施し、本人の専門医としてのキャリア形成と義務履行の両立が図られるように、一人一人の実状に沿ったアドバイスを行いました。

令和4年度の貸与医師の勤務先については、おおよそ地域の医療機関での勤務が始まる4年目の貸与医師32人中26人が知事指定病院での勤務となり、うち年度中途での移動も含めて13人が第2グループ、第3グループの病院等で勤務しています。

② 初期臨床研修医に対する指導

熊大病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科を選択した初期臨床研修医5人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

施設名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ総人数
熊本大学病院							1	1	1			1	
くまもと県北病院 ／くまもと県北教育拠点										1			
河浦病院 ／河浦教育拠点													

③ 専攻医に対する指導

令和4年度は、熊本大学総合診療専門研修プログラムでは、プログラムを修了した専攻医1人が総合診療専門医の資格試験に合格しました。現在、引き続き専門研修に従事する5年目の専攻医が1人（うち1人が今年度終了予定）、4年目の専攻医が1人、3年目の専攻医が1人、2年目の専攻医が1人、1年目の専攻

医が1人それぞれ地域の病院で勤務しており、5年度からはさらに2人が新たに総合診療科の専攻医としてプログラム研修を始めることとなっています。

また、研修の支援・指導の充実を図るため、テレビ会議システムを活用し、総合診療に関する困難事例を情報共有すること、専攻医の抱える症例の共有化を図るとともに必要な助言を適宜行うことなどを遠隔で指導する「合同Webカンファレンス」を5回開催しました。併せて、専攻医等が経験した症例・事例の発表を、テレビ会議システムを通じて各病院へ配信しております。当寄附講座としては、専攻医の研修修了要件であるポートフォリオ(経験省察研修記録)の作成指導なども行っており、年5回のレジデントデイを開催することで専門研修の進捗状況の確認を図り、よりきめ細かい指導に努め、プログラム修了に向けてさらに丁寧な指導に心がけてまいりました。当寄附講座としては、このように地域で必要とされている総合診療医の育成に向けた取り組みを強力に進めているところです。

● 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。

熊本大学病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。

また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生(地域枠入学者を含む)や、熊本県出身の自治医科大卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

◆ 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修(内科、小児科、救急)、その他の選択研修で構成されます。将来の自分のキャリアプランに合わせてローテーション、勤務地の選択が可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ(診療所・中小病院)	6ヶ月以上	合計 18ヶ月以上
	総合診療Ⅱ(病院総合診療部門)	6ヶ月以上	
領域別研修(必修)	内科		12ヶ月以上
	小児科		3ヶ月以上
	救急科		3ヶ月以上
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc...		希望に応じて

▼ 総合診療研修・必修領域研修機関一覧

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	河浦病院	栖本病院	
	そよう病院	公立多良木病院	新和病院	沢田内科医院	
	安成医院	御所浦診療所	椎原診療所	湯島へき地診療所	
総合診療Ⅱ	熊本大学病院	熊本医療センター	上天草総合病院	くまもと県北病院	
	人吉医療センター	天草地域医療センター	水俣市立総合医療センター		
内科	くまもと県北病院	上天草総合病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
	熊本総合病院	くまもと森都総合病院	熊本赤十字病院		
小児科	阿蘇医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
救急科	熊本大学病院	熊本医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター	
	天草地域医療センター				
その他の領域	外科	そよう病院	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
		熊本大学病院(消化器外科)	熊本大学病院(乳腺・内分泌外科)	熊本総合病院	山鹿市民医療センター
	産婦人科	人吉医療センター	熊本総合病院	天草中央総合病院	
	整形外科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本大学病院	熊本総合病院
	皮膚科	くまもと県北病院			
	泌尿器科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本総合病院	
	放射線科	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	天草中央総合病院
	精神科	熊本医療センター			
	麻酔科	くまもと県北病院			
	リハビリテーション科	くまもと県北病院			
臨床疫学	熊本大学病院				

◆ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース(例)

卒後（年目）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ	第2グループ	第2又は第3グループ		後期研修（義務内）	義務年限修了
② 勤務（研修）先医療機関候補	臨床研修 県内の基幹型臨床研修病院		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター			第2グループの医療機関 ・阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院	第2又は第3グループの医療機関		県内の医療機関	
③ 義務償還期間（年）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	—

【備考（総合診療）】

- 第1～3グループ、後期研修（義務内）の順序は入れ替え可能です。
- 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。
- 研修先及び勤務先は、県内の威嚇地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療

地域医療・総合診療実践学寄附講座

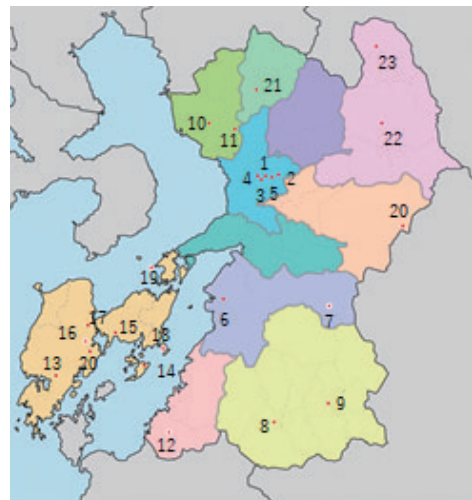
② 専門研修ローテート(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	くまもと県北病院 総合診療科 内科研修											
2年目	くまもと県北病院 小児科 小児科研修		熊本地域医療センター 救急科 救急科研修			上天草総合病院 内科 総合診療Ⅱ研修						
3年目	河浦病院 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

◆ 研修施設一覧 令和4年度

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 くまもと森都総合病院 | 13 河浦病院 |
| 2 熊本赤十字病院 | 14 御所浦診療所 |
| 3 熊本大学病院 | 15 栖本病院 |
| 4 熊本医療センター | 16 天草地域医療センター |
| 5 沢田内科医院 | 17 天草中央総合病院 |
| 6 熊本総合病院 | 18 上天草総合病院 |
| 7 八代市立椎原診療所 | 19 湯島へぎ地診療所 |
| 8 人吉医療センター | 20 新和病院 |
| 9 公立多良木病院 | 21 山鹿市民医療センター |
| 10 くまもと県北病院 | 22 阿蘇医療センター |
| 11 安成医院 | 23 小国公立病院 |
| 12 水俣市立総合医療センター | 24 そよう病院 |



Ⅳ 専門医資格修得後のキャリア支援について

専門医資格取得後も、熊本大学病院総合診療科として様々なキャリア支援を実施。大学病院という診療・教育・研究機関の特色を活かし、個別のニーズに合わせ、臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも含め、様々な研鑽を積むことができることが特徴です。

専門医取得後の5年間は、これまでも増して重要な時期であるとの考えのもと、卒後6年目から10年目程度の若手医師を中心に様々な指導、支援を実施しております。もちろん、それ以上のキャリアをお持ちの方に対して、要望に応じた支援を行うことも可能となっています。

医師としての臨床能力を磨くことはもとより、指導医として医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験を積むことも可能としております。熊本県内に多数存在する連携機関の協力のもと、各人の要望に応じた多彩な研鑽を積むことができる場を用意しています。また専門医資格取得後、変化する各人の様々な要望に即し、総合診療領域外、あるいは関連する領域についての研修を行うことも支援します。各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう、熊本大学病院総合診療科がバックアップしております。令和3年度から、新たな専門医制度下での総合診療専門医資格修得者4名が、大学病院や地域の医療機関等に勤務しながら、当講座の支援を受けながら各人の希望に応じて研鑽を積んでおります。具体的には、現在、当講座の教員が地域支援先医療機関でカンファレンスや相談に応じるなどの支援を行っています、さらには、対象の医師に対して英語論文の執筆支援を行い、うち1人は症例報告を掲載予定となっております。

また、熊本大学の大学院へ進学し、医学博士の修得を目指す者の支援も実施しております。それまでの臨床経験の中で得た様々な疑問の解決を目指し、各人の興味に応じた臨床研究を推進し、学位の修得を目指した論文作成を指導しています。令和3年度から社会人大学院学生として、大学病院外で勤務しながら研究を行う2名の専門医資格修得者がこの博士課程に在籍しています。

更には、熊本県の医師修学金貸与制度や自治医大の卒業生など、地域での診療に従事する義務がある方々に対しても、義務の償還を行いながら、キャリア形成支援を継続することが可能であるのも特徴です。総合診療科と当寄附講座及び地域医療支援機構が一体となって、引き続きそれまでの研鑽で身に着けた能力を生かし、様々な施設、あるいは地域で活躍の場を見つけることを支援しています。

▽ 講演会

● 2022年 6月22日 第9回 熊本大学総合診療セミナー 「ALPにもっと光を！」

<講師>

飯塚病院 総合診療科 診療部長 清田 雅智 先生

● 2022年 9月13日 第10回 熊本大学総合診療セミナー 「社会的処方 ～まちとのつながりで人が元気になる方法」

<講師>

川崎市立井田病院 西 智弘 先生

● 2022年11月22日 第11回 熊本大学総合診療セミナー 「日常臨床をアップデートせよ！ ～診療で使えるアプリケーション10選」

<講師>

医療法人社団孔和会 松本内科・眼科理事長
松本 朋樹 先生

「日常診療を一步先へ ～diseaseとillnessを学ぼう」

<講師>

阿蘇医療センター 内科 平賀 円 先生

● 2023年 3月29日 第12回 熊本大学総合診療セミナー 「地域ケアの最前線！ 総合診療医の能力を200%活かす コミュニティホスピタルとは」

<講師>

医療法人 博愛会 穎田病院 総合診療科長
吉田 伸 先生

Ⅳ 総合診療医育成のためのPR活動

◆ 熊本大学病院総合診療プロモーション動画制作

地域における医療提供体制の実情と総合診療医へのニーズの高まり、そしてその魅力を医師の日々の医療活動を通して紹介し、若手医師及び医学生に地域医療マインドの涵養を図るとともに、総合診療医を目指す動機付けとすることができるよう、5分程度の総合診療プロモーション動画を作成しました。この動画は、総合診療科のホームページに掲載し、多くの皆さんに視聴いただくとともに、プライマリ・ケア連合学会学術集会等全国的な学会・イベントにおいて、熊本大学病院総合診療専門研修プログラムの紹介動画として活用することとしています。

プロモーション動画「総合診療医 最前線を駆け抜ける。」

https://kumadaisoushin.com/training_program#tp_fi



熊本大学病院 総合診療科ホームページの開設

<https://kumadaisoushin.com/>

地域医療・総合診療実践学寄附講座としても、総合診療医を育成する観点から、広く関係者に総合診療科の活動をPRする総合診療科のホームページを開設しました。当寄附講座ホームページとリンクして、令和3年3月に新たに設置された熊本大学病院総合診療科の活動状況等を紹介し、総合診療の必要性、魅力、重要性等を医療関係者のみならず広く一般に情報発信し、理解を深めてもらうこととしています。



4. 専攻医の声



早川 香菜美 先生

令和4年度は人吉医療センター総合診療科で勤務をしておりました。外来、病棟、救急、五木村診療所に加えてCOVID19の対応など幅広く経験することができ、大変ではありましたが、とても充実した1年間となりました。今まで経験の少ない分野の症例も多数経験させていただき、他の専門医の先生にご助言をいただいたり、自分で調べたりなど試行錯誤しながら日々の診療にあたっておりました。その時は目の前のことに一生懸命で、きついと思うこともありましたが、思い返してみるとその経験が自分の力になっていると感じます。

総合診療専門研修の内科分野の研修を行わせていただき、無事、すべての専門研修プログラムの課程を修了することができました。関係各所の皆様には大変お世話になりました。

下地 徹 先生

2020年1月から2023年3月までくまもと県北病院で勤務しました。その間、内科全般、総合診療科、小児科研修を行いました。2022年度は総診I研修を行いました。外来、救急外来、一般病棟、HCUといった病院診療の中で、多彩な急性期～慢性期疾患、COVID-19診療、訪問診療、多職種連携、看取りなども学ぶことができました。印象に残っているものは書き切れませんが、その一つに地域連携があります。くまもと県北病院は地域医療連携室が非常に頑張っており、退院調整を含め、地域の医療機関との連携には無くてはならない役割を担っています。困難症例に当たる度に連携室でじっくりと相談させていただくことができ、患者・家族との面談に必ず同席いただきました。あの環境で地域医療や福祉を学べたことが、自分の成長につながったのではないかと考えています。

今後ですが、4月からは熊本大学病院にて救急研修、7月からは天草市立河浦病院で総診研修を行う予定です。今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本田 宏介 先生

河浦病院に来て1年半が経ちました。ここは患者さんの年齢層が高く、外来患者さんの平均年齢は70代後半～80代、入院患者さんの平均年齢は80代後半～90代です。重度の難聴や認知症、方言で話す方も多く、簡易拡声器などを用いてコミュニケーションをとっています。僻地で交通の便が良くないので、なかなか病院への通院ができない方のために訪問診療も行っています。訪問診療では聴診器と簡易超音波検査機器しか持っていけないため、問診や身体診察が重要になります。

地域柄、ムカデ咬傷やマダニ咬傷の患者さんも多く、専用の器具で除去しています。年齢層が高いため、転倒後の体動困難や骨折、脊椎圧迫骨折など整形外科的疾患の患者さんも多いです。小さい病院の利点で各診療科間の垣根が低く、整形外科の先生に指導していただいています。都会では珍しい地域ならではの疾患、地域の方々との親交や信頼関係構築など、まだまだ勉強すべき事はたくさんありますが、楽しく頑張っています。

松岡 隼平 先生

こんにちは。専攻医3年目の松岡隼平と申します。私の前年度の活動について簡単にご報告させていただきます。

前年度は、くまもと県北病院総合診療科、同院小児科、熊本医療センター救急科、上天草総合病院内科、診療所勤務、学校医、訪問診療なども経験させて頂き、かなりバラエティに富んだ研修内容でした。医師という職業の需要の幅広さを実感できました。

特に自分の中で印象的だったのは、家庭医という存在の公衆衛生上の重要性です。日々一日20人程の外来患者を見ていたのですが、ほとんどは安定している人ですが、私たち医療従事者から見たら信じられないような医療リテラシーの低い方と出会うことが多々あり、適切に教育を行い生活習慣病、ひいては重大疾患へ進展するのを予防することの重要性が直感でわかりました。

今年は、専門医の先輩の元、自分の診療スキルの洗練と手技の上達を課題に上げ研鑽していこうと思っています。ご指導ご鞭撻の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

西富 友哉 先生

2022年3月に天草地域医療センターでの初期研修を終え、4月より熊本大学病院総合診療科へ入局しました。4月から7月まではくまもと県北病院に勤務し、外来診療、入院診療、救急外来、コロナ外来などを行いながら、地域の基幹病院における総合診療科の役割を学びました。8月からは大学病院へ異動し、10月までは救急外来、その後は救急外来と総合診療科外来を並行して学びました。初期研修、くまもと県北病院、大学病院と施設が変わるたびに患者さんの層や求められる診療内容も変わり、一口に総合診療科と言ってもその守備範囲が多岐に渡ることを改めて実感した年でもありました。一方で、類似した症例を繰り返し診る機会が少なく、知識や技術の定着という意味では課題となったように思います。

2022年はオミクロン株の流行やウクライナ戦争、世界的なインフレなど、多くの国や地域にとって試練の多い年でありました。今後の情勢がどうなっていくのか予測できませんが、将来様々なフィールドで貢献できるよう、2023年も一つ一つ経験を積んで行きたいと思っています。